

生きものと 友だち

配当時数	12 時間	配当時期	2 年 6-7 月	教科書ページ	下巻 p34-43
特に中心となる内容	(7)動植物の飼育・栽培				
単元の目標	継続的に生き物を飼育する活動を通して、生き物の生態、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、生き物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。				
単元の評価規準	知識・技能 - 継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。 思考・判断・表現 - 継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらの生態、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 主体的に学習に取り組む態度 - 継続的に生き物を飼育する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。				

※教科書では、アゲハや やご（トンボ）、ダンゴムシ、カタツムリなどの飼育を例にしている。

※日常的な世話は、配当時間外とする。

小単元の目標	学習活動	重点評価規準
生きものと 友だち 生きものを さがそう 3 時間／下 p34-37 目標 生き物について話し、生き物を探す活動を通して、生き物について知っていることを思い起こし、それぞれの生き物の特性を考えながら工夫して探すことで、生き物に積極的に関わろうとすることができるようにする。	①身近な生き物について、知っていることなどを出し合う。 - 教科書を見ながら、どんな場所にどんな生き物がいるか、知っていることや予想したことを出し合う。 - 教師は、児童が生き物に関心をもてるよう、ダンゴムシやアゲハの幼虫など、身近にいる生き物を事前に捕まえておき、児童に見せてもよい。 ②生き物探しに出かけ、見つけて触れ合ったり、飼育する生き物を採集したりする。 - 校地内だけではなく、地域探検での経験を生かして、校外の場所にも着目できるようにする。 - 教師は、次時で生き物の暮らす環境を提示できるよう、児童が生き物を見つけた場所を写真に撮っておく。 ③どこにどんな生き物がいたかを伝え合う。 - 生き物マップを作って、どこにどんな生き物がいたかをクラスで共有し、すみかや餌の用意につなげる。	思考・判断・表現 - 身近な生き物や、生き物がいる場所について、知っていることを思い起こし、それぞれの生き物の特性を考えながら、工夫して探している。 主体的に学習に取り組む態度 - 身近な生き物について、自ら進んで関心をもち、関わろうとしている。
生きものの せわを しよう 4 時間／下 p38-39 目標 生き物の飼育を通して、飼育体験や捕まえた環境などを生かして、すみかやえさなど必要なものを考えて用意することができ、生き物の変化や様子に応じて世話をしようとするができる	■生き物探しを続け、生き物と触れ合ったり捕まえたりする。【常時活動（配当外）】 ①生き物の住む環境に目を向け、すみか等を整える。 捕獲場所に着目し、生き物のすみかを整えたり、世話をしたりする。別冊「ひろがるせいかつじてん」p26-27を参照してもよい。	知識・技能 - 生育環境や特徴に合わせ、適切な方法で生き物の世話をしている。 思考・判断・表現 - すみかやえさなど必要なものについて、飼育体験や捕獲場所から予想したり、本などで得た知識を生かしたりしながら、用意している。

ようにする。	・教師は、図鑑など生き物に関する書籍を集めたコーナーを作り、自由に見られるようにしておく。 ・同じ生き物を飼っている児童でグループを作り、情報を共有する。 ・教師は、自分の作ったすみかの工夫などを友達に伝えるように声をかけ、クラス内の情報交換を促す。 ・排せつ物の処理や掃除のしかた、生き物との触れ合い方なども、世話する中で考えられるようにする。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ・生き物の世話について、生き物の変化や成長の様子に応じて世話をしようとしている。
生きものを くわしく見て みよう 3 時間／下 p40-41 <u>目標</u> 生き物を観察する活動を通して、これまでの様子と比べたり、形や動きをたえたりしながら、生き物の変化や成長の様子、生き物には生命があることに気付くことができるようにする。	■すみか等を整えながら、継続的に生き物の世話をする。【常時活動（配当外）】 ・授業時間外にも、気付いたことや思ったことを記録しておけるように、教師はカードを準備し、自由に使えるようにしておく。 ・朝の会や帰りの会などで、生き物について共有するとよい。 ①生き物の様子や変化について、思ったことや気付いたことを表現し、クラスで共有する。 ・口頭での発表だけではなく、動作化・絵・写真・クイズ・図鑑などの多様な表現方法を用いるとよい。 ・脱皮や産卵、羽化などの大きな変化は、クラス全体で共有するとともに、可能であれば全員で見られるようにする。	<u>知識・技能</u> ・生き物を観察し、その変化や成長の様子、生き物は生命があることに気付いている。 <u>思考・判断・表現</u> ・これまでの様子と比べたり、形や動き、色などを知っているものにたとえたりしながら、生き物の変化や成長の様子を捉えている。
大はっけんを つたえよう 1 時間／下 p42 <u>目標</u> 生き物の成長や世話の様子をまとめ、表現する中で、成長の様子を比べて明らかにしたり、変化や様子が伝わるよう工夫して表現したりし、これからも愛着と親しみをもって生き物と関わっていこうとすることができるようにする。	①世話や成長の様子をまとめ、表現する。 ・書きためたカードや撮影した写真、動画などを使用したり参考にしたりにして、一つの成果物にまとめる。 ・別冊「ひろがるせいかつじてん」p12-13 などを参考に、伝えたいことが適切に伝えられる方法を選ぶ。 ・生命を大切にするという観点から、飼ってきた生き物を採集した場所に帰すのか、これからも飼い続けるのか、一人一人が考えるようにする。	<u>思考・判断・表現</u> ・成長の様子について、資料やカードなどの記録を使って比べて明らかにし、変化や様子が伝わるように工夫して表現している。 <u>主体的に学習に取り組む態度</u> ・自分で世話をした生き物に対して愛着をもち、これからも親しみをもって生き物と関わっていこうとしている。
生きものと友だちに なれたかな 1 時間／下 p43 <u>目標</u> 自分の継続的な世話によって生き物が成長したことに自信をもつとともに、生き物を生命あるものとして実感することで、生き物に愛着をもち、これからも生き物を大切にしようことができるようにする。	①活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。 ・これまでの記録などを見ながら、友達との対話の中で活動を振り返り、本単元でしたことや、もっとやってみたいことなどを書く。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ・自分の継続的な世話によって生き物が成長したことに自信をもつとともに、生き物を生命あるものとして実感することで、生き物に愛着をもち、これからも生き物を大切にしようとしている。